

新型コロナウイルスの対応について

5月8日、新型コロナウイルスが感染症法上で2類からインフルエンザ等と同じ5類へと変更になりました。

これに伴い学校での扱いが次のように変わります。以下お知りおきください。

★感染した場合

もし感染した場合は、発症日を0日として6日目以降、かつ症状が軽快してから1日以上たっていれば登校が可能です。それまでは出席停止ですので登校はできません。また、発症から10日間はマスクを着用するようにお願いします。

★家族が感染した場合

濃厚接触者としての出席停止という扱いはなくなりました、生徒本人の体調が平常であれば登校してください。咳や発熱等の症状のある場合は登校を控えるようにしてください。

★感染が落ち着いている平常時

1) 換気、手洗い、咳エチケット等の対策はこれまでどおりお願いします。



出典) 厚生労働省 Web ページ <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000187997.html>

2) マスクの着用は求めません。(ただし混雑した交通機関の利用や高齢者施設への訪問時等は着用するように指導する場合があります)

3) 食事の際の黙食は不要です。

4) 感染不安による出席停止の扱いは、原則としてなくなります。

5) 体調が平常であれば毎日の体温の測定は不要です。

★感染が流行している時は次のような対応を取る場合があります。

1) 「近距離」「対面」「大声」での発声や会話を控えるよう指導

2) 身体的な距離の確保

3) マスクの着用の励行

4) 発声や近接する教育活動も制限する可能性があります。

5月19日全校集会

5月の全校集会では「みんなで教室の空気を作る」という話をしました。新しいクラスにも慣れ、暑くなってくると授業への集中力が保ちにくくなってきます。各教室でみんなでしっかり学ぶ雰囲気を作ってほしいと思っています。

これは「自立」「つながり」「学び」という3つの要素が全部入った課題です。

先日、あるクラスの学級日誌を見ていたら「授業中にいい加減にしていたり、私語をしている人がいていやだ」と書いてありました。

今のクラスが始まって1月半、暑くなってきたし、ちょっと集中できていない時間も出てきているのかな、と思います。

クラスを立て直すには、どうしたらよいでしょうか。今日はそれを考えて欲しいと思います。

みんなで教室の
空気を作る

=自治と共助=

2023.5.19
全校集会

25年ほど前の話になります。落語会であるお客さんが落語を聞かず居眠りをしてました。その様子を見た落語家はこれ以上できない、と舞台を降りてしまい、主催者はそのお客に帰ってくれ、と出ていくように求めました。

その客は「落語を聞く権利を侵害された」として10万円の損害賠償を求めて裁判所に訴えた、ということがありました。

居眠りした客を追い出した落語家



そのお客さんは「金を払ったんだから何をしてもよいだろう」と主張しています。

一方、その落語家は「その人が寝たこと自体よりも、他のお客さんとの空間を壊されたので落語を続けることができなかった。」

落語会的主催者は「金を払えば演者に失礼なことをしてもよい、ということにはならない」と言っています。

この訴えに対して、裁判所はどんな判断をしたと思いますか？
裁判長は次のような判断を出しました。

「居眠りは演者の意欲をそぎ、演目の続行に重大な障害になることがある。退出を求めた主催者の行為は社会通念上（世間の常識として）、適切と認められる」として賠償請求を認めませんでした。

つまり裁判官は、一人のお客さんの居眠りが会場全体の空気を乱し、そのままの状態をほっておくと他のお客さんの迷惑になる、と判断したのです。

さて、先生は、授業中に君たちが寝ていても、お喋りしていても「出ていけ」とは言いません。でも、そんな教室では内心「やりにくいなあ」と思いながら授業をしています。

先生たちは皆さんが眠くならないような授業のやり方を研究していますが、それでもなかなか難しいこともあります。

授業中の居眠り



でも反対に皆さんが目を輝かせて一生懸命聞いてくれたり問いに反応してくれたりする教室では、先生の気持ちも乗って楽しい授業になるのです。

授業はアーティストのライブと同じで、先生と生徒と一緒に盛り上げていけたら、と思います。

授業中に説明を聞いていない人、寝ている人は、誰にも迷惑をかけていないと思っているかもしれませんが、先生のパフォーマンスは下がり、教室全体に「一生けん命やらなくていいか」という空気を作っているかも知れません。

そうすると、みんなが損をしている状態になってしまいますね。

では、教室をみんなで勉強しようという空気にするにはどうしたらよいでしょうか。

「先生が注意すればいい」と考える人もあるでしょう。

幼稚園や小学校では、それだけでうまくいくこともあるとは思いますが。

みんなで教室の空気を作る

自治の力

生徒会

クラ代会議、班長会

ホームルーム、学活

でも中学生になると、思春期、反抗期となるので、それだけではうまくいかないのです。

大人からの注意に対していちいちうるさいと思ったり、真面目にやるのがカッコ悪いと感じる人も出てくるからです。

また逆に、叱られた経験がなく、強い口調を怖い、と思い心が傷ついてしまう人もいます。

そこで、自治の力が必要になります。自治の力とは「自分たちで何とかしていこう」という気持ちを形にする力です。

そのための組織として、君たちには「生徒会」、「班長会」などがあり、使える時間として「毎日のホームルーム」や「学活」の時間があります。

かつて、とても荒れていた学校が「サークル10運動」ということをやって立ち直ったことがありました。

まず、一人の人が3人の人に「ちゃんとやろうよ」と呼びかけます。

そして、言われた人はそれぞれ2人の人に同じように呼びかけます。

それまでみんな声に出して言えなかったのですが、本当は「ちゃんとしたい」と思っている人の方が圧倒的に多いのです。

そうして呼びかけは広がり、1人が10人に、10人が100人に広がります。これが「サークル10運動」です。

そうやって普通の学校生活を送りたい、と声を上げ行動する人が増えていきその学校は立ち直ったのです。

15中にも、同じ考えでの取り組みがあるでしょう。何かわかりますか。「そこのあなたも執行部」です。1年生の入学前ですが、3月の生徒会選挙の立ち合い演説会では、みんな「いい学校にしたい」と話していましたね。

その思いをみんなの中に広げていきたい。それが「そこのあなたも執行部」と思います。

皆さん生徒が団結したときの力はみんなが思っているよりも本当にすごくて、学校を変える力があるんです。

授業中ちゃんとやろう、校則を変えよう、楽しい行事を作ろう、..

そんな前向きな思いを持っていても、話さなければ、行動しなければ誰にも伝わりません。

勇気を出して声に出していけば、クラスも、学校も変えることができるのです。

大人の世界でも最近はず政府や市役所といった公的な機関の責任でやって欲しい、という声が多くあります。これが「公助」です。

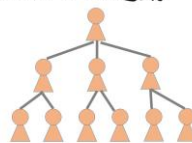
しかし、国や市はお金や、役所の人数の関係ですべての要望に応えることができていないのです。と言って、自助、自分の力だけしか頼れない世の中では多くの人が困ります。

だから共助、つまり隣近所や地域の人がお互いに助け合える町を作る必要があります。実は、十五中のいちごフェスタも地域の人たちが力を合わせて作っていき、というふうに話し合いがされています。

皆さんが大人になった時に、人々が今よりもっとつながりあうことができるよう、今からみなさんの力や知恵を集めて問題を解決していくことをしてほしい、と心から思っています。

明るい未来を作るのは若い皆さんなのです。以上で今日の私からの話は終わりです。

つながりを作る
・サークル10運動



大人の世界でも

公助
共助
自助